

2018年度第2回町田市総合教育会議  
議事録

1 開催日 2019年2月18日

2 開催場所 10-3会議室

3 出席委員  
市長 石 阪 丈 一  
教育長 坂 本 修 一  
教育委員 佐 藤 昇  
教育委員 八 並 清 子  
教育委員 坂 上 圭 子

4 市長及び町田市教育委員会教育長の署名

市長

教育長

5 出席事務局職員

政策経営部長	小 島 達 也
経営改革室長	水 越 祐 介
政策経営部次長兼企画政策課長	田 中 善 夫
子ども生活部長	三 橋 薫
子ども生活部保育・幼稚園課長	押 切 健 二
文化スポーツ振興部長	能 條 敏 明
文化スポーツ振興部オリンピック・パラリンピック等 国際大会推進課長	唐 澤 祐 一
学校教育部長	北 澤 英 明
教育総務課長	田 中 隆 志
教育総務課担当課長	高 野 徹
指導室長兼指導課長	金 木 圭 一
指導課統括指導主事	辻 和 夫
生涯学習部長	中 村 哲 也
生涯学習総務課長	佐 藤 浩 子
生涯学習総務課担当課長兼総務係長	早 出 満 明

- |   |           |                             |
|---|-----------|-----------------------------|
| 6 | 議題        | 次期町田市教育に関する総合的な施策の大綱の策定について |
| 7 | 公開又は非公開の別 | 公開                          |
| 8 | 傍聴者数      | 1名                          |
| 9 | 議事の概要     |                             |

【午前9時開会】

○田中企画政策課長

定刻となりましたので、ただいまから2018年度第2回町田市総合教育会議を開会いたします。本日、森山委員におかれましては急用で欠席となっております。

私は政策経営部企画政策課長の田中と申します。どうぞよろしく願いいたします。

(省略：配布資料の確認)

それでは、開会にあたりまして市長からご挨拶をいただくとともに、引き続き、その後の司会進行につきましても市長、よろしく願いいたします。

○石阪市長

おはようございます。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

最近の世界情勢は複雑なため、子どもたちにある一定程度の安定した生活や環境など、そういったものを保障ができないというのが、私たちの世代の一番大きな問題かなと思います。また、子どもたちにとっては、どんな変動があっても、それに対応できる力を身につけることが大事だと思います。

最近読んだ本で、将来的に仕事は多くの部分がAIなどに置き替わるだろうと書かれていました。ただ、その環境においてフィットできる人材であれば良いのですが、発展途上国は適応できる割合が低いだろうと言われており、必ずしもAIが世界の平和や福祉などに貢献できるわけではないということが論じられていました。では日本はというと、どちらかと言えば対応はできるが、教育の目標はよりそれに対応できるものでないとならないと断言しています。そうではないと置いていかれてしまうだろうというのが、その本の一番大きな主張でした。私の感想としては、日本は独立していて、ある一定のレベルがありますが、もうそのままではいかないと感じました。

トイレの改修や学校の耐震化、エアコン設置などのハードの事業を実施してきましたが、ソフトの部分はかなり遅れていると感じています。その点について、皆さんで議論していただきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。次第の3番目、町田市教育に関する総合的な施策の大綱（案）についての説明をお願いします。

#### ○田中企画政策課長

それでは大綱案について簡潔にご説明いたします。

2018年7月27日に開催いたしました第1回町田市総合教育会議におきまして大綱の素案を皆様にお示しし、ご意見をいただきました。また、2018年10月にひと月間、実施いたしました市民意見募集におきましても、6名29件のご意見をいただきました。これらのご意見を踏まえまして、大綱案を作成いたしました。

大綱は基本理念を「誰もが自分らしく夢を描き、叶えるまちへ」としております。誰もが自分らしい夢を抱き、叶えることができるまちを目指してまいります。そしてこの基本理念をもとに、四つの基本方針を掲げております。基本方針Ⅰが「子どもが自ら未来を切り拓く力を育む」、基本方針Ⅱが「多様なニーズに応え、学びの環境を整える」、基本方針Ⅲが「地域ぐるみで子どもに関わり支える」、基本方針Ⅳが「生涯にわたり学び、活躍できる環境を整える」です。

この各基本方針のもと、二つから三つの具体的な目標を掲げております。これらにつきましては、第1回の総合教育会議でご説明しましたとおり、町田市の現状と課題の分析からまとめたものとなっております。この基本方針により、子どもの健やかな育ちを支え、市民が一生涯にわたり学び、活躍し続ける環境づくりを進めることが、夢を描き、叶えるまちづくりに繋がると考えております。

最後に2018年10月に実施した市民意見募集の結果についてです。いただきましたご意見のいくつかについて、市の考え方をご紹介します。

まず、「多様な価値観を大切に教育を行ってほしい」とのご意見をいただきました。これにつきましては、人々の価値観が多様化している状況で他者と協働していくためには、多様な価値観を受け止め、理解することが重要であると認識しているところでございます。次に、「生涯学習の機会が増えることで新たに学ぶことができ、今までの経験と合わせ、地域の活性化に役立つ活躍ができる生涯学習を充実させてほしい」とのご意見をいただきました。これにつきましては、市民の皆様の学ぶ意欲とこれまでのご経験が生かされるよう生涯学習の機会を充実させ、一生涯にわたり活躍することができる環境を整備してまいります。事務局からの説明は以上でございます。

○石阪市長

「町田市教育に関する総合的な施策の大綱(案)」の説明が終わりましたので、ここから皆様方からご意見をいただきたいと思ひます。

○坂本教育長

これまでの総合教育会議の中でも話題に挙がっておりましたが、今の子どもたちが社会の主役となっている10年後、15年後の未来というのは、AI等の技術革新の進展に伴って、社会的に大きな転換が進んでいると言われてひます。また、人口減少、超高齢化が予測を超えて進み、人生100年時代が到来するということが言われており、生涯学習の分野を取り巻く環境というものも、大きく変化してひます。

こういった教育環境の複雑化、多様化を捉えて、教育委員会は町田市の教育振興基本計画である「町田市教育プラン2019-2023」を今回策定いたしました。来年度、2019年度から始まるこの教育プランの中では、教育目標として夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる、生涯にわたって自ら学び、互いに支え合ふことができる地域社会を築くことを掲げてひます。

私としては、これからの予想困難な社会の中で、子どもたちには夢や志をもって自ら学び、考え、たくましく生きてほしいと思ひております。また、市民の皆様が生涯にわたって学び、その成果を生かして人と人々が繋がっていく地域社会を目指していきたくと思ひております。今回示されました教育大綱案の四つの基本方針は、「町田市教育プラン2019-2023」に掲げた基本方針、学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす、充実した教育環境を整備する、家庭や地域の教育力を高める、生涯にわたる学習を支援するという四つの方針と方向性を同じくするものであり、「町田市教育プラン2019-2023」に掲げた施策を推進し、教育目標を実現することが、今回の教育大綱案に掲げる「誰もが自分らしく夢を描き、叶えるまちへ」という基本理念の実現にも繋がっていくと思ひております。

来年度からは、この教育大綱の基本理念と教育プランの教育目標の実現に向け市長部局と連携し、様々な具体的な事業に取り組んでまいりたいと思ひております。

○佐藤教育委員

私も教育大綱案に賛成ですが、2点ほど意見を述べさせていただきます。

1点目は基本理念についてです。教育プランの教育目標でも、夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てるとしており、教育大綱でも概ね同じ思いであるためこの理念には賛成ですが、一つお願いがございます。それは教育大綱に基づいた教育行政が市民の皆様を受け入れていただけるためには、まずこの基本

理念を町田市民の皆様幅広く知っていただき、ご理解いただけるよう取り組むことが重要ではないかということです。そして、基本理念に基づく基本方針をもとにして、今後様々な事業を進めていかれると思いますが、各事業を企画する際に、この基本理念を常に忘れないようにしていただくことを願っております。

もう1点は、基本方針Ⅳについてです。学校教育とともに生涯学習を担当業務としている教育委員会では、同様の趣旨の目標を立てており、この基本方針Ⅳについて大いに賛成したいと思っております。しかし、教育プランの教育目標では、「互いに支え合うことができる地域社会を築く」と表し、町田市民一人一人の学習意欲を満足させたり教養を深めさせたりすることにとどまらず、学ぶ活動を通して人と人とのつながりを生み出す地域社会を築いていくことを視野に入れていきます。

具体的に事業を実施していく際に、こうした教育委員会の思いも酌んでいただきたいと思っております。

#### ○八並教育委員

私からもひと言申し上げたいと思っております。このような基本理念、「誰もが自分らしく夢を描き、輝くまちへ」としていただきましたことを大変嬉しく思います。教育現場におきましても、子どもたちの一人一人の個性、可能性を大切にすること、そしてそれぞれが認められ、夢に向かって進むことを応援していきたいと思っております。また、私たちの生き方を子どもたちが見たときに、僕たちも私たちも、自分たちの夢に向かって進みたいと思えるような大人でありたいと思っております。そして、基本方針Ⅳにあるように、生涯にわたり活躍できる環境を整え、生涯現役として一人一人が心豊かな人生を送れるよう、そのサポートをすることも非常に大切になってくると思っております。

#### ○坂上教育委員

私からもひと言申し上げます。私は基本理念の「誰もが自分らしく夢を描き、叶えるまちへ」というフレーズがとても夢があっていいなと思っており、この基本理念は町田市民の皆様に分かってもらいたいと思っております。

子どもたちが自分の夢を描き、叶えられるまち町田で健やかに育ってほしいという願いがこもった、とても素晴らしい大綱だと思っております。夢が叶うように、私たち大人がしっかりと子どもたちを見ていけたらと思っております。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。教育大綱の一句一句をどこまでブレイクダウンできるかが勝負だと思います。

教育大綱案について、これでいきたいと思いますとお言葉をいただいたと受け止めさせていただきます。教育大綱の考え方は、市長部局、教育委員会と共有し、協力しながら進めていくこととなります。民間企業や地域の皆さんにもご理解、ご支援いただきながら、しっかりと展開し進めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

それでは次に、次第の4番目です。今後の施策展開について、「えいごのまちだ」やICT、働き方改革、それから幼保小の連携、オリンピックに関する取組といった施策の例を挙げながらお話させていただきたく思います。最初に「えいごのまちだ」と教育の情報化をテーマにしたいと思っております。事業説明をお願いします。

#### ○坂本教育長

教育委員会では、将来的に労働者の働き方や職業そのものが根本から変わることが予想される社会の中を生きていかなければいけない子どもたちのために、10年後の社会で求められる人材の育成に視点をおいています。その中で重点施策となるのが英語教育とICT教育です。

えいごのまちだ事業は、進展するグローバル社会において多様な価値観を受け入れ、認め合う力が求められていること、また、保護者の皆様から英語教育を充実させてほしいという強いご要望を受け実施するものです。これにお応えするには、外国語によるコミュニケーション能力を育むことが重要であり、これまでの英語教育にはない実践する機会や、英語を話すための動機づけといったことが、ますます求められていると考えています。この事業の中では、2020年度から始まる新学習指導要領に定められたものだけでなく、英語でのコミュニケーションに重点をおいた、いわば生きた英語を町田市独自の取組の中で育んでいきたいと思っております。

次に、教育の情報化推進事業、ICT教育についてです。タブレット端末ですとか、プロジェクター等の大型提示装置を使用した授業というのは、学校教育をより創造的なものへと変えていく可能性を持ったツールであると考えております。これらのICT機器を活用した授業を通じて、子どもたちがお互いの考えを即座に共有して尊重しあいながら課題解決に臨めるということや、教員が子どもたち一人一人の理解度を把握して、それに応じた指導を行うことができるようになると考えております。こういったテクノロジーの力を借りながら、これまでの教師から子どもたちへの一方通行の授業手法ではなく、子どもたちがグループで協働して探求することで自ら回答を導き出せるような授業への転換に取り組んでいきます。

具体的な内容につきましては、指導室長からご説明をいたします。

#### ○金木指導室長

初めにえいごのまちだ事業についてです。町田市では2016、2017年度に東京都英語教育推進地域の指定を受け、小学校英語カリキュラムを作成し、小学校英語の教科化の準備を進めてまいりました。2018年度からは小学校英語教科化の先行実施、小学校の外国語指導助手でありますALTの配置時間数の増加、英語授業指導員であるMEPSの配置、放課後英語教室の実施など、子どもたちが生きた英語に触れ、学ぶことができる機会を設定してまいりました。2019年度からは中学校のALTの配置時間数を週8時間に増加し、話す、聞く、読む、書くの4技能を測定できるGTECを中学校1年生に導入して、その後の英語指導に生かしてまいります。また、英語を学ぶ動機づけ、グローバルな視野の育成につきましては、南町田のグランベリーパーク内に整備されます、スヌーピーミュージアムを活用しましたオールイングリッシュによる学習プログラムを、また自然休暇村などを活用したイングリッシュ・キャンプ、子ども提案型イングリッシュ・アクティビティにも2020年度以降に実施し、生きた英語に触れる機会を創出していきたいと考えております。

次に、ICT教育の推進についてです。現在、全教員にタブレットを1台ずつ、児童・生徒用タブレットを各学校に40台、全普通教室に大型提示装置の設置を順次進めております。2017年度からICT教育推進モデル校の指定や市内7人の教員をICT活用マスターに指名し、指導案や取組事例の作成に当たっております。また、2018年度に機器整備しました26校の代表教員を対象に、グーグル社と連携した研修も実施しております。2019年度はICT企業を活用した事業を促進するためICT授業支援員を意図的、計画的に学校に訪問させ、授業の指導や補助を行ってまいります。また、ICT機器の整備終了後の切れ目ない施策展開を考えるため、2019年度から二つのプロジェクトを持つ未来型教育モデル事業に小学校2校、中学校1校で取り組みます。プロジェクトⅠ、G suite for Educationではグーグル社のアプリケーションであります共同編集の機能を持つG suiteを活用して協働学習の教育を進め、21世紀型スキルの習得を目指します。プロジェクトⅡ、AI for Educationでは一人一人に最適化された教材を提供する個別学習支援システムの活用モデルの構築と学習ログによる評価、指導への活用モデルを構築いたします。この研究を2年間で行い、得られたエビデンスを活用し、2021年度からのICT教育にさらに生かしてまいります。

えいごのまちだ事業及びICT教育につきましては以上でございます。

#### ○石阪市長

それでは意見交換ということで、ご発言をいただきたいと思っております。



#### ○八並教育委員

町田市は非常に特徴的な取り組みをこれからしようとしております。

まずは新しい授業に対応する先生方の指導力の向上のため、町田イングリッシュプロモーションスタッフ、MEPS を導入し、現場の先生の指導力を上げる補助をしていただきます。そして、子どもたちにおいては、放課後の英語教室や ALT の先生を増やしたり、来ていただける時間を増やしたり、生の英語に接する時間を増やします。さらには、特に特徴的なプログラムとしてイングリッシュ・キャンプやイングリッシュ・アクティビティを実施し、英語に長時間触れることにより、子どもたちの英語に対しての苦手意識を除くようなプログラムを考えております。

ICT 教育については既に学校現場で取組をしていただいているところです。ICT 機器は何年かすると、また新しいものができてしまうという、対応が難しいところもあると思いますが、是非いろいろな面でご協力をいただき、子どもたちがこれから生きていくための道具の一つとして、学習現場でも整備を進めていただきたいと思います。

#### ○佐藤教育委員

冒頭、市長からお話がありましたが、子どもの教育で英語や ICT を充実させていくという方向性は、まず間違いないだろうと思っています。ただ、教育活動の成果というのはじわじわと効いてくるものなので、その結果がすぐに現れるものでもないということをお含みいただきたく思います。

それから、子どもの力を伸ばそうとすることを急ぐあまり、挫折する子どもがないように配慮をすることも必要かなと思います。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。次の働き方改革について教育長からお願いします。

#### ○坂本教育長

教員の働き方改革については、新聞報道等でもその多忙化が社会問題とされておりますが、教育委員会が 2018 年 1 月に独自に実施した教員の勤務実態調査においても、時間外在校時間数が 1 カ月あたり 80 時間を超える教員が全体の約四分の一の 23% を占めており、この多忙化の解消に向けた取組を迅速に行わなければならないと考えております。

多忙化の要因としては、学校が家庭や社会から求められることが増え続けていて、教員の業務がサービス業化してきていると考えています。こうした状況を

受け、教育委員会では町田市立小中学校における働き方改革プランを策定いたしました。今後、教員がその専門性をより発揮できるようにするための人的支援や仕組みづくりを進め、教員がいきいきと子どもたちに向き合える環境づくりを進めていきたいと考えています。具体的な内容は指導室長から説明します。

#### ○金木指導室長

教員の働き方改革についてです。本プランは教員が担う業務の縮減、適正化を図ることで、授業準備や教材研究等に注力できる体制を整備するとともに、教員のライフワークバランスを確立して、教育の質を向上させることを目的としております。

本プランは、四つの基本方針と 26 の取組から構成しており、特徴としては第一に ICT 技術の積極的活用についてです。今年度から 2020 年度までの 3 年間で配備予定の教員用タブレットは、スマートフォンと同様の LTE 回線を使用しており、教員が場所を問わず授業準備や校務に活用することができます。また、次年度から活用します学籍管理や成績管理、週ごとの指導計画の作成などの統合型校務支援システム、出退勤管理システム、また出勤簿や休暇簿などのサービス管理につきましても、ICT を活用するサービス管理システムの導入などを検討してまいります。第二に人的支援の拡充であります。今年度、副校長補佐 11 校、スクールサポートスタッフを 26 校に配置しております。次年度からは、これを拡充してまいります。

そして四つの基本方針と主な取り組みですが、基本方針 1 では小学校給食費の公会計化を含めた学校徴収金の見直し、基本方針 2 ではスクールロイヤーの導入や今年度から取り組んでいます様々な人的支援の拡充、基本方針 3 では 2019 年 4 月 1 日から運用を開始する、学校への電話に対する音声案内の導入、基本方針 4 では出退勤管理システムの活用など、これらにより本プランによる目的の達成を果たしていきたいと考えております。働き方改革につきましては以上でございます。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。それでは、皆様から意見をいただきたいと思えます。

#### ○佐藤教育委員

教員の多忙な状態を改善する取組が本格的に始まり、とても嬉しく思っています。私が学校に勤務していた頃の学校の役割は、主に文化遺産を伝達することと、集団生活を学ばせることの二つと考えていたのですが、そこに新しい課題が次々と入ってきたように感じました。例えば、違法薬物に関する事件が連続して

発生した場合には、薬物乱用防止教育が学校教育の中に加わるようになりました。こうして世の中の出来事を反映した何々教育というものが増え、それを指導する教員の研修も増えていきました。それから、教員の多忙を論じる際には、しばしば外国の学校教員の業務が引き合いに出されるにも関わらず、日本では登下校を含む校外での安全確保や生活指導、部活動、給食の指導などは、相変わらず教員の業務から外されないままとなっています。

この度、町田市教育委員会も文部科学省や東京都教育委員会の動きに合わせ、教員の働き方改革プランを作成し、具体的な実施に向けて取り組まれることと思いますが、根本的なこと、例えば学校や教員に多くのことを任せてしまう考え方を改めることや、教職員の数を大幅に増やすことが必要であるにもかかわらず、これは市区町村ではできないことですので、国や東京都に求めていくということも必要ではないかと思えます。

それから、教員の働き方改革は、単に教員の仕事量を減らし、教員の負担を少なくするというのではなく、教師のすべき仕事や教師にしかやれない仕事は何かといったことを改めて整理し、その業務に集中できるようにするという視点が重要です。子どもの学力をつけるために授業力を向上させることはもちろんのこと、子どもに寄り添って子どものより良い成長を手助けしていくという営みは、教師にしかできないことであります。悩みを聞いたり、いじめをなくしたり、児童虐待を受けていることに気付いたりする、そうした能力を教員は身につけておかなければならないと思えます。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。それでは、次の幼保小連携に移りたいと思えます。これはまさしく、市長部局と教育委員会部局とが連携をしていかないといけない話です。では、保育・幼稚園課長お願いします。

#### ○押切保育・幼稚園課長

町田市接続カリキュラムについてご説明いたします。幼児期から小学校低学年における教育は、子どもたちが広く社会で活躍するための資質や能力を最大限に伸ばすために大切な時期です。この時期を通じて重要なことは、幼児期の教育で培ってきた子どもの力がリセットされることなく、小学校の教育の中でさらに伸ばされていくよう、学びが円滑に接続されていくことです。そのため、幼稚園、保育園、小学校がこれまで以上に連携を強化し、それぞれの園や学校で接続を意識した教育、保育の実施を促していく取組として、子ども生活部と学校教育部が共同で幼保少連携推進事業を2016年度から開始しました。その一環としてこの度、町田市接続カリキュラムを策定いたしました。

策定の背景及び課題について説明します。1点目としては、5歳児から就学にかけての学びや生活に現れる変化が、子どもにとっては劇的といえるものだという事です。幼児期の教育は、遊びを通じた学びから、小学校に進む中で教科学習を中心とした学びに大きく変化していきます。このような中で2点目として幼保と小学校の円滑な接続が強く求められています。

3点目は、カリキュラム作成に際して全園・全校を対象として行ったアンケート調査や検討会の議論から把握した町田市の課題です。今後円滑な幼保小の接続を行うための重要な課題として、こちらの2点に整理しました。

今、ご説明いたしました背景や課題を踏まえて、「策定にあたっての基本的な考え方」を5つに整理しました。

町田市接続カリキュラムの策定にあたっては、幼稚園や保育園、小学校の先生方で構成する検討委員会を立ち上げ、ご意見を伺いながら作成しました。

このカリキュラムは、5歳児後半の「アプローチカリキュラム」と、小学校1年生7月までの「スタートカリキュラム」で構成されており、町田市における接続期の保育・教育のスタンダードとなるものです。アプローチカリキュラムは、小学校の学びや生活を見通しながら、幼児期に育みたい資質や能力を育てるため各園で実施するカリキュラムです。また、スタートカリキュラムは、幼児期の教育内容の意味や具体的取り組みを理解しながら、子どもたちの学びや生活を小学校教育へ円滑に接続させていくためのカリキュラムです。

このカリキュラムには、全ての園や小学校で保育者や教員が共通の意識で接続期の子どもの育ちを意識して、教育・保育を実践してけるように、「町田市として接続期に目指す町田っ子像」を設定しました。

また、接続期に適した教育・保育の内容として「接続期のカリキュラムの全体図」を示しました。さらに、カリキュラムを実践するための支援のポイントなどがわかる「つながりシート」や、「円滑な接続を見通した教育の実践事例」を掲載するとともに、「子どもの交流、職員間の連携、家庭との連携」を掲載しています。

今後、接続カリキュラム講演会や市内を5地区に分けたワークショップを展開していく予定です。

○石阪市長

それでは、委員の皆さんからご発言をいただきたいと思います。

○坂上教育委員

説明にもありましたように、幼少期の学びや経験はこれからの育成の中で大きく影響することが多く、大事にしなければなりません。今回策定された接続カ

リキュラムは、とても有効であり期待しております。特に、第一子の保護者は小学校に上がるときに、どんな準備が必要か、実は具体的に分からないことも多くあります。資料のように文章や絵で説明していただけるととても助かると思います。

また、接続カリキュラムの講演会を開催されるようなので、一人でも多くの新1年生の保護者の皆さんが参加されることを願います。今まで見過ごされがちだったこの幼保小の接続期は、実は一番大事な時期でもあり、お子さんはもちろん、保護者の方々もいろいろと不安な時期でもあります。大事なものは、その不安を一つでも取り除いてあげることだと思います。そして、小学校へ上がる準備は、家庭の日頃の生活から少しずつ意識して、親子でも取り組んでもらいたいと思います。

#### ○佐藤教育委員

幼保小連携推進事業は画期的な取組であると思いますが、私なりの思いを2点述べさせていただきます。

1点目は、保育園と幼稚園では、その指導方針などに違いがありますし、設立主体も公立、私立があり、中には創立者の信条によってできあがった幼稚園もあります。こういった様々な背景の中から共通した基本的な考え方を抽出してアプローチカリキュラムを作り上げることには、大変な努力を要したと思いますし、担当者のご苦勞に敬意を表します。今後、このカリキュラムによる共通した実践が行われ、どこを卒園しても同じスタートラインに立ち、小学校に入学できるようになることを願っています。

2点目は、保育園、幼稚園と小学校との接続についてです。この事業は、特に連続性を大切にして、それぞれのカリキュラムを構成しているようであります。こうした考え方は大変重要で、小学校生活を円滑に、大きなストレスを感じることなく始められるような配慮をすべきと思います。その一方、保育園、幼稚園とは大きく異なる小学校という環境に接し、その異なる環境を体験することを通して、人間的な成長を図ることが可能であるとも思われます。円滑な接続や連続性だけにこだわるのではなく、乗り越えられるものであるならば、小学校という壁を残すことも必要ではないかと思います。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。それでは、今日の最後のテーマのオリンピック等のキャンプ実施チームとの交流に移りたいと思います。オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課長説明をお願いします。

#### ○唐澤オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課長

オリンピックキャンプの受け入れも含め、進めていく取組についていくつか紹介をさせていただきます。

まず、ラグビーワールドカップ 2019 公認キャンプ地としてアフリカのナミビア共和国の代表チームを受け入れます。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前キャンプとして、三つの国、七つの競技について事前キャンプに関する覚書を締結しております。キャンプ期間中に地域との交流の機会、とりわけ子どもたちと選手との交流の機会を多く設けていき、教育分野との連携が図れる部分について調整してまいります。

続いて、オリンピックの自転車ロードレース競技についてでございます。東京の武蔵野の森公園をスタートしまして、静岡県富士スピードウェイまでコースが設定されております。その途中で町田市内の小山ヶ丘、小山、相原地域を約 3.4 キロ走ります。夏休み期間中にはなりますが、多くの市民また子どもたちに観戦に来ていただきたいと思っております。また、今年 7 月 21 日には、テストイベントとしてロードレース男子の競技がございます。

最後に教育分野との連携の事例ということで、好事例を紹介いたします。小学校パラバドミントン体験教室と銘打ち、小学校へ出向いてパラバドミントンの体験会を開催しております。2015 年度から今年度で 4 年目でございますが、年間 6 校 500 人、今年は 1,000 人を超える子どもたちが参加してくれております。パラバドミントンの日本代表強化指定選手が毎回インストラクターで来ていただいております。大変良い取組なのではないかと思っております。また、学校においては、貴重な授業の時間を割いていただきまして誠にありがとうございます。このパラバドミントン体験教室などと連携し、パラバドミントン世界大会に各小学校から観戦に来ていただいております。この大会は、パラバドミントンの世界ランキング対象の国内唯一の大会で、そのレベルの高さを子どもたちに生で体験してもらうことができ、我々としても大変嬉しく思っております。2021 年度以降にも再度、町田市で開催していただけないかということで、誘致の働きかけをしております。

スポーツを通じた教育分野との連携の機会は工夫次第でいくらかでも作れるのではないかと考えており、積極的に関わりをもっていきたいと考えております。

#### ○坂上教育委員

いよいよ来年の開催にあたり、各地で様々なオリンピック・パラリンピック関連のイベントが催されている話をよく見聞きするようになりました。町田市でもキャンプ地や自転車ロードレースのコースにより、世界レベルの一流選手を見ることのできる機会があることをとても嬉しく思います。このような機会は

またとない貴重な経験になると思いますので、是非町田の子どもたちに一人でも多く参加していただき、スポーツの素晴らしさを実際に感じ取ってもらいたいと思います。

#### ○八並教育委員

オリンピック・パラリンピックの開催を通して、海外の方々との直接的な触れ合いや、文化に触れ合うことが大変重要になっていると思います。先ほど、パラバドミントン選手との触れ合いについて説明がございましたが、そのほかにも、教育の一環として多くの学校にオリンピックやパラリンピアンが訪れ、子どもたちと触れ合い、お話を聞く機会があります。その度に、子どもたちは勇気をいただいたり、夢や目標の大切さを感じていると伺っております。

教育大綱にもありますように、子どもたちがそれぞれの夢に向かって輝き、失敗をくり返して成長していくような力を育むということが、オリパラを通じた教育だと思います。

また、これを機会に、町田市の障がい者スポーツの理解が市民の皆様の間でも広がっていけばと思います。さらには、そういった障がい者の方でも気軽にスポーツができるような環境づくりにも繋がると良いと思います。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。子どもたちに様々な経験をさせるというのは非常に大事なことです。簡単に経験できることではありませんので、チャンスを生かしていきたいと思います。

2018年の0歳から14歳の転入超過数は、去年に引き続き全国3位でした。転入は沢山していますが、残念ながら出生率がなかなか上がっていきません。この問題は難しく、教育について若い夫婦にどう受けとめていただけるかというところが一番大事な点だと思います。先ほどご意見がありましたが、町田市教育施策をさらに伝えていくことは、この町田に住み、子どもを産んで育てていきたいという気持ちになっていただくことに、大きな影響があると思います。これから教育施策を展開していくときに、それぞれの現場の一つ一つの動きの中で、その動きにどういう意味があるかということ、市民や保護者の方に伝えていけるかどうか勝負だと思っております。これに関しては具体的でないといけないと思うので、それぞれの部署の担当者を含め頑張っていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

#### ○田中企画政策課長

これもちまして、2018年度第2回町田市総合教育会議を閉会いたします。

お疲れ様でした。